

阿波公方の足跡を辿る歴史散策

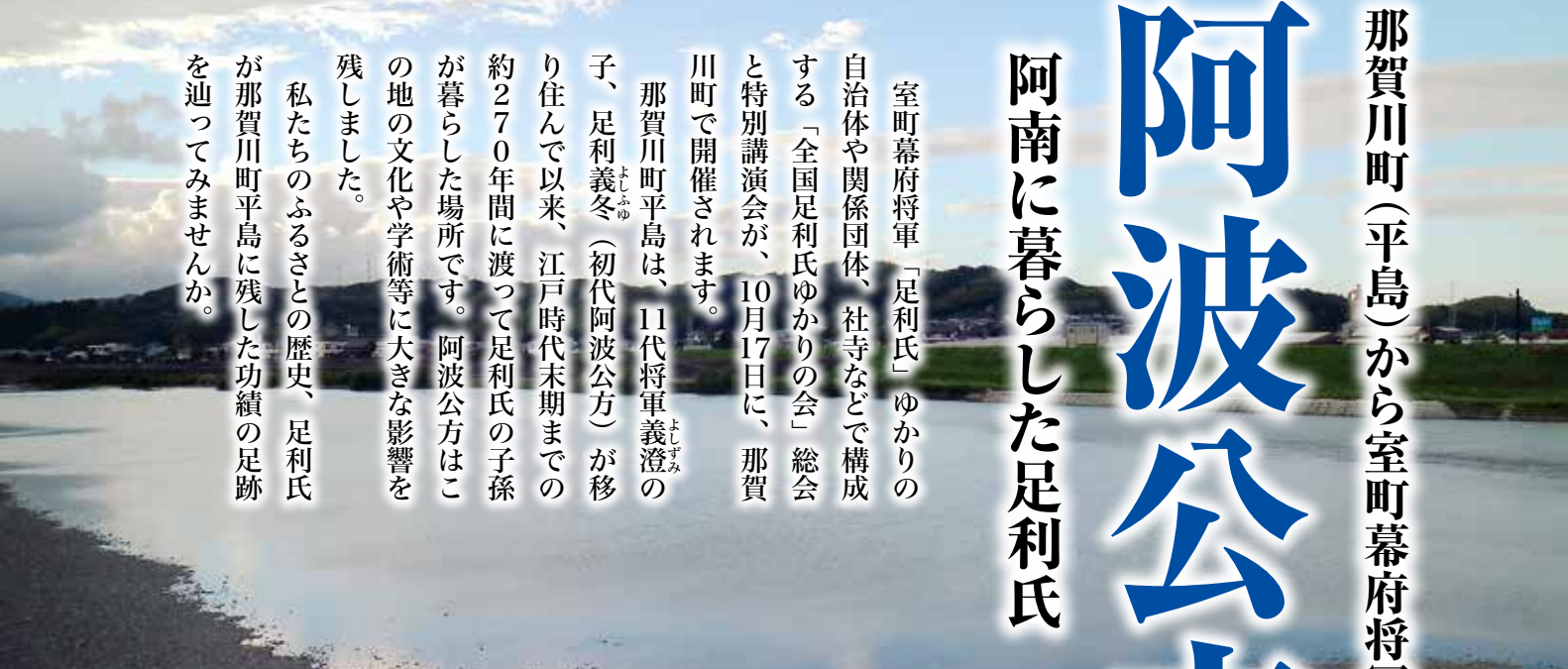
4 信行寺山門
信行寺には、公方館の門の一つだったと伝えられている山門があります。

3 那賀川図書館
那賀川図書館の庭園「阿波公方の苑」には、棲龍閣詩集に収められている9代公方義根の漢詩が刻まれています。

2 西光寺
西光寺の境内には、室町幕府10代將軍義植、14代義榮、初代阿波公方義冬(よしの)の墓所があり、山門の右手には歴代公方の墓があります。

1 阿波公方・民俗資料館
資料館は、かつての公方館跡に立地し、棲龍閣詩集など公方ゆかりの品々を展示しています。

その他：阿波公方キャラクター「公方くん」、道ノ駅「公方の郷なかがわ」、科学センター、平島小学校、平島分館、JR牟岐線、阿波中島駅、那賀川支所、那賀川中学校、阿波公方・民俗資料館、那賀川図書館、信行寺山門、阿波公方・民俗資料館、西光寺、阿波中島駅、JR牟岐線、平島分館、平島小学校、道ノ駅「公方の郷なかがわ」、科学センター、那賀川中学校、那賀川支所。



阿波公方

那賀川町(平島)から室町幕府將軍が出た!

阿南に暮らした足利氏

室町幕府將軍「足利氏」ゆかりの自治体や関係団体、社寺などで構成する「全国足利氏ゆかりの会」総会と特別講演会が、10月17日に、那賀川町で開催されます。

那賀川町平島は、11代將軍義澄の子、足利義冬(初代阿波公方)が移り住んで以来、江戸時代末期までの約270年間に渡って足利氏の子孫が暮らした場所です。阿波公方はこの地の文化や学術等に大きな影響を残しました。

私たちのふるさとの歴史、足利氏が那賀川町平島に残した功績の足跡を辿ってみませんか。

阿南市市制施行60周年記念事業

阿波公方の実像 -「由緒」「格式」「文化」「退去」-

特別講演会

「足利家文書」「蜂須賀家文書」を中心に確実な史料から、平島に居を構えた「阿波公方」に関して、「由緒」「格式」をキーワードに、地域文化に果たした役割、徳島藩主蜂須賀家との関係、阿波退去後の生活の実態など「阿波公方の実像」に迫ります。

日時 10月17日(水) 16:30~17:30 入場無料・申込不要
場所 那賀川図書館 視聴覚室 問い合わせは 文化振興課(☎22-1798)へ



講師 四国大学文学部教授 須藤 茂樹さん

1963年生、東京都出身。徳島市立徳島城博物館係長・学芸員、四国大学文学部日本文学科講師、同准教授を経て同教授・同附属言語文化研究所長。専門は日本中近世史・博物館学。

※阿波公方・民俗資料館では、企画展「阿波公方が暮らした時代の阿南市内の遺跡」(詳細15ページ)を開催。また那賀川図書館では、特別展示「図書館資料で見る阿波公方と室町將軍家」(詳細19ページ)が行われます。



14代室町幕府將軍 足利義榮の像

阿波公方の歴史

建武5(1338)年足利尊氏が征夷大將軍となり、幕府を開きました。室町時代の始まりです。時は流れ、8代將軍義政の時代に、応仁の乱が契機となり、以後戦乱の時代に突入します。天文3(1534)年、足利義冬(11代將軍義澄の子で、10代義植の養子となる)は、阿波国の守護大名細川一族に迎えられ、京都から阿波国平島(現那賀川町)へ移り住みました。平島は、足利尊氏が建てた天竜寺(京都)の所領であり、ここには那賀川の河口から近畿へ行く港がありました。

平島より次期將軍をめぐす義冬。これが初代阿波公方です。「阿波公方」という呼び方は、足利尊氏が朝廷から公方の称号を授かったことで、「公方」が足利將軍一族の肩書きとして用いられるようになり、平島に渡った義冬のことも住民たちが「公方さま」と呼んだことから始まります。

義冬は、阿波国の三好三人衆に擁立され、上洛の好機を得ましたが、病で果たせず、その子義榮が意志を引き継ぎました。永禄11(1568)年2月8日、足利義榮は、室町幕府14代の將軍の座につきました。都から遠く離れた平島からの將軍誕生です。しかし、まもなく義榮は織田信長に追われ、ふるさとに近い鳴門の地で病死。義榮の在任はわずか7カ月でした。

やがて、江戸時代に入ると、阿波藩主、蜂須賀氏は足利家に対し厳しい減禄政策(今で言う大幅な補助金カット)を行います。また、4代公方義次を平島又八郎と名乗らせ、以降も「平島姓」を使わせるなど、公方の権威を引き下げる政策をとりました。このような阿波藩からの冷遇に対する公方家の不満は大きいものでありました。

このような時代の中でも、8代公方義宜は、京都の名儒、島津華山を招き子弟を教育します。9代公方足利義根は、少年時代から華山に学び、本格的な漢学の素養を身につけた詩人に成長。天明6(1786)年、「棲龍閣詩集」5巻3冊を刊行しました。

棲龍閣とは島津華山の住居の名のこと、平島館の敷地内にありました。華山の門下からは義根をはじめとする多くの詩人が輩出され、「日本詩選」などにその名を連ねています。このことから、平島地域が阿波国南部における文化の中心地であったことがうかがえます。

しかし、文化2(1805)年、9代公方義根は阿波を退去。退去の原因については諸説ありますが、主に阿波藩に対する不満であったといわれています。

公方が平島の地を去って200年以上となる今日、公方の住んだ平島館はもう残っていませんが(一部は阿南市や小松島市の寺に移建されています)、約270年にわたり平島の地に居を構えた阿波公方は、民間に幾多の伝承を伝え、往來の面影をのびせています。

